

福島大学附属図書館報

No.46 2011.4.1 発行

書 燈



〒960-1293 福島市金谷川1番地
TEL (024) 548-8087
<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>
携帯電話版
<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/i.htm>

福島大学附属図書館

素晴らしき哉、図書館

共生システム理工学類 島田 邦雄



私の専門分野は機械工学である。機械と言っても本当に多岐に渉る。例えば、車や飛行機などの乗り物から、広くはロケットなど宇宙に関する事まで、小さくはマイクロマシーンと言った極小の世界や、建物、医療、材料の世界まで機械が関係することは多い。これだけ扱う対象が広げれば、もっと色々な世界を見ておく必要が出てくる。そこで手短な方法となると、図書館から知識や情報を吸収するということになる。

そこで図書館を利用するが、どうしても仕事柄、理工関係の書籍や資料を読むことが多くなる。しかしながら、専門分野ばかり読んでいればそれで良いのかと言うと、それでは脳にいけないらしい。どう脳にいけないかと言うと、右脳と左脳で扱う分野が異なり、どちらか一方しか脳を鍛えないと素晴らしいアイデアなど浮かんでこないというのだ。ある脳学者が唱えた説だ。

感情や感覚を扱う脳と、知識や理性を扱う脳は左右に分かれており、例えば、絵画や音楽などの情報は前者の脳を鍛え、知識や理屈などの情報は後者の脳を発達させる。理工系の書籍ばかり読んでいると、どうしても後者の脳ばかり鍛えられることになる。それでは良いアイデアが浮かんでこない。そこで、貪欲に何事にも興味を持つことが必要になり、例えば、絵画や音楽などを鑑賞すると前者の脳も鍛えることになる。すると、どちらにも偏らない両者の脳から素晴らしいアイデアが突如浮かんで来る。アイデア不足で悩んでい

る方は是非試してみられるとよい。理工系の学者に、絵画や音楽、文学などに才能を見出す例が多いのは、そのためだろうか？私とて、機械工学や物理学の本ばかり読んでいては良いアイデアが浮かばない。美術や音楽関係が好きでよくそれらの本を読むが、その時の方が、頭の回転がすこぶる良い。

そこで、福島大学の図書館に行ってみる。そしてまず驚いたのが、葛飾北斎の絵手本である。葛飾北斎の絵手本をご存知だろうか？葛飾北斎と言えば、誰もが知っている江戸時代に活躍した有名な浮世絵師であり、「富嶽三十六景」を知らない人はいないであろう。彼は、生涯三万点以上もの作品を描いたというが、一つ一つの人物や植物、風景など、それらはどれも生き生きと描かれている。その全体の図柄から、ほんの一部を切り出したように人や植物など様々な絵を描いたのが、当時の多くの人々を魅了した「北斎漫画」と称する「絵手本」である。「絵手本」とは、読んで字の如く絵画学習のための教習本のことであるが、現代でも見る人を魅了し飽きさせない。本当に「漫画」の一部を見るようである。実は、この貴重な、あの有名な絵師の資料が、本学の図書館にまず足を踏み入れると、エントランスのショーケースに澄まし顔で展示されているのである。

よく考えてみると、図書館は我々人類の知識の宝庫と言える。それは、理系関係の書物だけでなく、文系関係の書物も当然あるからで、我々が悩んだ時には、まず、図書館に行けば何か見つかるかもしれないと期待して行く所でもある。突拍子もないことであるが、もし、今突然に世の中の物すべてが何らかの原因で消滅したとすると、私達はまず、どうするだろうか？便

(2)

利に使っていた車や電車、建物など何も無いという状態である。さらに、それを作った人が生きているのかも分からないとする。その時私達は恐らく、車や電車、建物を作るすべが記録されている書き物を探そうとするだろう。それを見れば、どこから材料を取り出したらよいか、さらに、作る方法も書いてあれば作り出すことが可能だからだ。それは、一体何であるか？それこそが図書館である。人類の今日まで培っ

てきた知識の宝庫の保管場所である。だから、図書館の存在は重要なのである。もしこの世から図書館が一切無くなり、物などを作る人も居なくなったとしたら、我々は原始時代に逆戻りしなければならない。

それが理解出来たら、脳の活性化のためにも、是非、エントランスのショーケースに注意して本学の図書館に今直ぐにでも行ってみよう。何か新しい発見があるはずである。



学内教員著作寄贈図書



『共通価値：文明の衝突を超えて』

法政大学出版局，2008
シセラ・ボク著，宮川弘美訳，
小野原雅夫監訳

出版からすでに2年以上経っていますが、このような機会を頂戴しましたのでご紹介させていただきます。スウェーデン生まれの女性哲学者シセラ・ボクの著書の翻訳です。諸民族、諸国家、諸宗教、諸文化、諸文明がいかにして共存していくことができ

るのかという、「グローバル・エシックス（地球規模の倫理）」のあり方を論じた書物です。たしかに人類はそれぞれ異なる宗教や価値観、政治体制のもとに生きていて、ともすれば互いに相容れないように見えるけれども、しかしみんな同じ人間として共通の最低限の価値観は共有しており、それらを基盤にして対話や協調を進めていくことが可能であることを論じています。

この著書は、すでにいろいろな学類のさまざまな専門の先生方にお読みいただき、好評を博してきました。専門の学問分野を超えて多くの先生方や学生の皆さんにインスピレーションを与える力をもった著作だと思います。ぜひ一度手に取っていただければと思います。



『「社会的弱者」の支援にむけて：地域における権利擁護実践講座』

明石書店，2010.11
福島大学権利擁護システム研究所編著（編集委員：新村繁文ほか）

地域には、高齢や障がいの故に、自分ひとりの力だけで、その権利を実現しつつ自立生活を送っていくことが難しい、いわゆる「社会的弱者」の人たちが少なくない。そうした人たちの権利や利益を擁護して、自立した社会生活を営んでいけるようバックアップする支援者の養成には、格差拡大・貧困問題がクローズアップされている現在、いっそう強い社会的ニーズがあると言えよう。行政政策学類では、そうした支

援者の養成をめざして、2007年度から2年半にわたり、地域の権利擁護関連団体や専門職と本学類の法学や福祉の専門家の連携の下に「高齢社会における弱者の権利と生活を護る担い手育成プログラム」(文科省「学び直し」プログラム)を実施してきた。本書は、プログラムで得られた成果をまとめた、学際的で、かつ理論と実践がバランスよく融合した、地域における権利擁護の支援者養成講座テキストとなっている。執筆陣には、本学類の多数の研究者が加わっているのみならず、地域の権利擁護実践の最先端で活躍する第一線の実務家も多数含まれており、きわめて具体的で実践的な知見を得ることができる。まさに本書は、「社会的弱者」の権利擁護に関心を持つすべての人にとって、とりわけ、現場で権利擁護実践をしようという人たちにとって、ぜひ一読を勧めたい一冊である。



「FUKURO_フクロウ」学内教員研究成果公開

<http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/>

【FUKURO_フクロウ_とは】

福島大学学術機関リポジトリ (FUKushima University RepOsitory) の愛称。福島大学の構成員による研究成果 (教員が書いた論文など) を、インターネットを通じて広く国内外に公開するためのシステムです。

董彦文

『日常業務データに基づく取引先の信用評価手法とシステムに関する研究』

科学研究費補助金研究成果報告書 2010

URI:<http://hdl.handle.net/10270/3502>

信用とは、今まで(現在)の行為からしても将来も間違いを起こさないと信頼することである。分割払い方式で携帯電話を購入する時、または銀行に教育ローンを申し込むとき、携帯電話会社または銀行が必ず審査を行う。この審査は顧客の信用を評価することであり、信用評価は実に身近で毎日行っている。

企業間の商取引では、通常掛売方式を採用する。つまり、即金でなく、後から代金をもらう約束で、品物を先に渡して売ることになっている。品物を取引先に渡して、販売代金を回収できていないうちに取引先が倒産すると、損失を被ることになってしまう。取引先の支払不能により、損失を被る可能性は信用リスクと呼ばれ、信用リスク管理は企業の経営管理上の重要課題の一つである。

顧客の信用を評価することは重要でありながら非常に難しい。厳しく評価すると、本来は正常な顧客を異常顧客と判定し、自社の商品・サービスを提供できず大切な顧客を失ってしまう。反対に顧客の信用を甘く判定すると、正常とされる顧客が倒産し、販売代金の回収不能が本当に起こってしまう。

また、何の情報に基づいて信用評価を行うかは非常に大きな問題である。銀行などの金融機関では、審査のため個人顧客には公的身分証明、勤務状況、収入・財産など、法人顧客には会社謄本、財務データなどを提出してもらうのが一般的であり、顧客の詳細データを入手することが容易である。このため、銀行などの金融機関を適用対象とした信用リスク評価の理論と手法は多数開発されてきた。しかしながら、非金融機関の一般企業では、取引先の財務デー

タを入手することが困難であり、特に取引先が中小零細企業である場合、倒産確率が非常に高いうえ、財務データの入手がほぼ不可能である。

そこで、本研究の目的は金融機関以外の一般企業を適用対象として、信用調査、財務データおよび株価などの外部データによらず、売上、取引代金の請求、入金などの日常業務データに基づき、取引先の信用評価を行う手法とシステムを提案することである。具体的には、各々の会計年度において、取引先分類、平均滞納額、最大滞納日数、滞納回数、年売上、滞納割合と取引回数の7つの指標データを集計し、判別分析、決定木などの統計解析手法、また事例ベース推論、サポートベクターマシンとニューラルネットワークなどの人工知能手法を用いて、高い精度で中小零細企業の信用評価を行う手法とシステムを開発した。

従来の信用評価手法とシステムに比べて、本研究は以下の特徴をもつ。

- (1) 財務データの公開が義務付けられていない非上場企業または何らかの原因で財務データを入手できない一般企業の信用評価にも利用可能であるため、ほぼすべての企業を評価でき、従来の研究より評価可能な対象が多い。
- (2) 金融機関に限定するのではなく、中小零細企業も含めて、ほとんどの一般企業において利用可能であり、利用範囲が広い。
- (3) 財務諸表データ、株価は人為的に操作される可能性がある。これに対して、売上、取引代金請求と入金などの取引データは日々の企業活動の記録であり、人為的に操作される可能性が低い。そのため、より客観的な信用評価が期待できる。
- (4) 日々の取引データは基幹系業務情報システムのデータベースから自動的に収集できるので、データ収集コストが低い。

しかし、取引実績のない新規取引先の評価には利用できないため、今後の課題としたい。

(4)

東日本大震災(2011年3月11日)による図書館の被害状況

福島市でも「震度5強」を観測した東日本大震災が発生した3月11日は、当初より館内整理とシステムメンテナンスのため休館としており、館内に利用者がいない状態でした。作業を行っていたアルバイトの学生、システム業者、職員は全員無事でしたが、資料落下(図書約14万冊/雑誌・新聞約8万点)、施設損壊などの被害がありました。

詳しくは図書館HPをご覧ください。 http://lib.fukushima-u.ac.jp/oshirase/201103shinsai_higai.htm

ボランティア

地震発生後は図書館を休館とし、落下した資料を書架の正しい位置へ戻し、破損した資料を回収する復旧作業を行いました。3月28日より、各学類の先生方や生協の職員の方、福島大学に避難している方達が、ボランティアとして参加して下さいました。ご自身も大変な状況の中、ご協力下さいました皆様に、心より御礼申し上げます。

詳しくは図書館HPをご覧ください。 http://lib.fukushima-u.ac.jp/oshirase/201103shinsai_fukkyuu.htm

目次

- 巻頭言「素晴らしき哉、図書館」…………… 島田 邦雄(1)
- 学内教員著作寄贈図書の紹介
『共通価値：文明の衝突を超えて』…………… 小野原 雅夫(2)
『「社会的弱者」の支援にむけて：地域における権利擁護実践講座』…………… 新村 繁文(2)
- 「FUKURO_フクロウ_」学内教員研究成果の紹介
『日常業務データに基づく取引先の信用評価手法とシステムに関する研究』…………… 董 彦文(3)
- 東日本大震災による図書館の被害状況…………… 利用者サービスチーム(4)